

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



安全リレー

広島県における安全就業の取り組み

■ 広島県連合の実績（平成28年3月末現在）

- 団体数 21団体
- 会員数 14,197人
- 契約金額 6,410,012千円（うち派遣306,668千円）
- 就業延人員 1,391,847人日（うち派遣56,652人日）
- 受注件数 89,821件（うち派遣418件）
- 就業率 請負・委任 82.5% 派遣 67.5%
- 入会率 1.5%

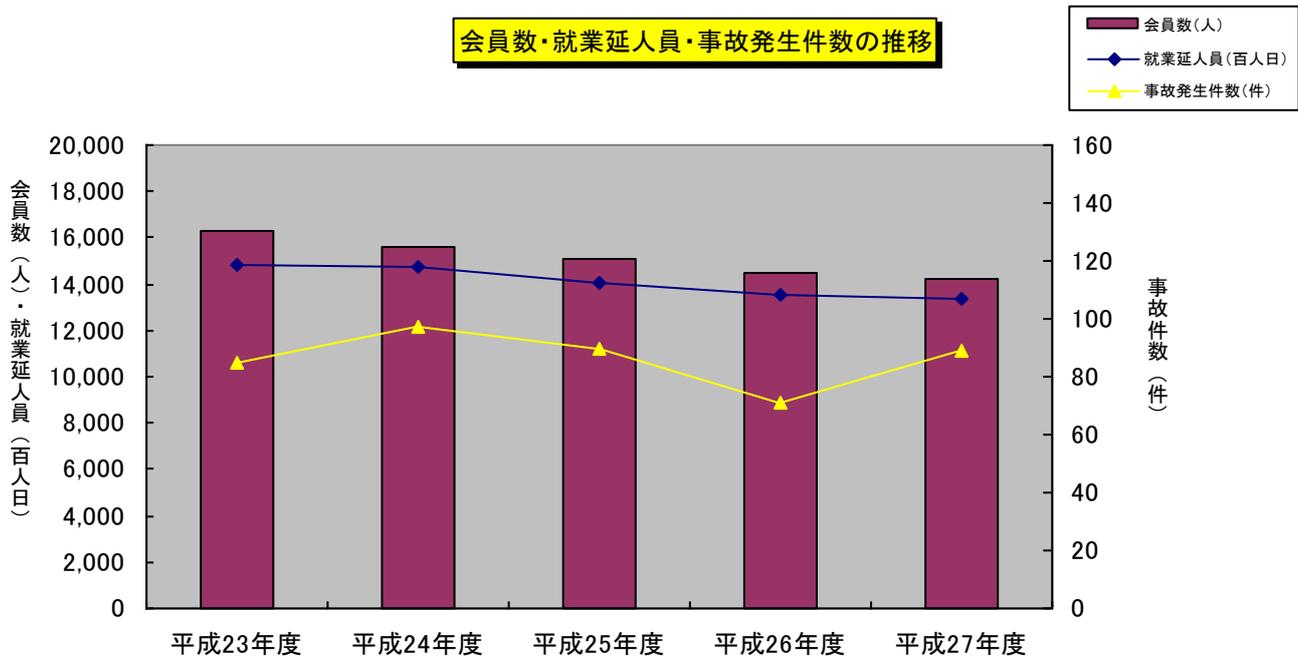
■ 広島県内の傷害事故発生状況

平成27年度においては、会員数が319人減少する中で、傷害事故件数は、89件で、前年度と比較すると18件増加した。

直近5年間の会員数・就業延人員と傷害事故発生件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
会員数(人)	16,263	15,636	15,067	14,516	14,197
就業延人員 (百人日)	1,485,174	1,476,565	1,408,515	1,353,122	1,335,195
事故件数 (件)	85(うち重篤1)	97(うち重篤0)	90(うち重篤0)	71(うち重篤1)	89(うち重篤1)

会員数・就業延人員・事故発生件数の推移



■ 広島県連合における安全・適正就業の取組み

広島県連合の安全・適正就業対策推進事業の実施にあたっては、「安全はすべてに優先する」をモットーに、会員の安全就業はもとより、就業途上の交通安全を含めた事故防止対策について、事業計画の重点事項として以下のとおり、組織をあげて取り組んでいます。

(1) 安全就業対策委員会の開催

当連合会では、活動拠点の事務局長・職員 4 名及び連合会職員 4 名で構成する安全就業対策委員会を設置しており、この委員会を平成 28 年 6 月 6 日に開催し、6 月～9 月を「熱中症対策取組強化期間」とし、各拠点において、会員の熱中症予防の取組みをお願いするとともに、安全就業担当者研修会、安全就業パトロールの実施について協議しました。



(広島県内全拠点に配布)

(2) 安全パトロールの実施

安全就業対策委員による各活動拠点の巡回パトロールを年 2 回実施し、各作業現場における安全就業確認及び安全就業対策等の取組み状況の聴取を行っています。

平成 28 年度 巡回パトロール

- 7 月 広島市 SC、三次市 SC、東広島市 SC、
廿日市市 SC、世羅町 SC
- 10 月 三原市 SC、庄原市 SC、安芸太田町 SC、
北広島町 SC、神石高原町 SC 計 10 拠点



(3) 「安全・適正就業強化月間（7月）」における取組み

連合会・活動拠点における安全・適正就業強化月間の取組みとして、次の会議・研修会を実施し、安全・適正就業についての再確認を行いました。

◎ 安全・適正就業推進員会議の開催

日 時 平成 28 年 6 月 30 日（木）

参加者 42名

講演① 「適正就業について」

講師：NR I 社会情報システム株式会社

マーケティング担当課長 兼永 敏博 氏

講演② 「改正労働者派遣法の運用について」

講師：広島労働局 需給調整事業課

課長補佐 武智 直道 氏

説明 平成 28 年度安全・適正就業強化月間の実施計画について並びに平成 27 年度シルバー人材センターにおける事故発生状況の分析について



◎ 安全就業担当者研修会

(広島会場)

(福山会場)

日 時 平成 28 年 7 月 20 日（水）

平成 28 年 7 月 12 日（火）

参加者 71名

52名

講演① 「蜂に刺されない為の安全対策について」

講師：一般社団法人 広島県ペストコントロール協会

理事 児玉 泰晴 氏

講演② 「剪定作業における安全対策について」

講師：職業訓練指導員（造園科） 沼田 佳秀 氏

発表 「重篤事故発生後の安全対策について」

公益社団法人 広島市シルバー人材センター

企画担当主査 谷中 久美子 氏

その他 「事故発生状況の分析」



(広島会場)



(福山会場)

(4) 「ヒヤリ・ハット体験事例集」の作成・配付

会員の「ヒヤリとした」「ハットした」体験事例を基に、事故の原因を究明するため2年に1回「ヒヤリ・ハット体験事例集」を作成・配付し活動拠点の安全就業対策に努めています。



(5) 「安全就業ガイドブック」の作成・配付

「安全就業ガイドブック」を作成・配付し、会員の安全に対する意識向上を図っています。



(6) 連合会発行の情報誌「mo・mi・ji」へ安全に対する記事の掲載

毎月発行の連合会だより「mo・mi・ji」に安全に対する記事や事故の状況を毎回掲載のうえ、活動拠点へ情報提供し、注意喚起等を行っています。



広島県シルバー人材センター連合会様からの報告でした。詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。

6月号の安全リレーは、群馬県長寿社会づくり財団様からの報告を予定しています。

平成 28 年度重篤事故とその推移について

1 重篤事故の推移

表 1 のとおり、重篤事故の件数は、平成 28 年度は 28 件で、平成 27 年度に引続き 30 件を下回りました。そのうち、就業中の事故件数は 21 件で、27 年度を 1 件上回っています。

また、就業途上の事故は、7 件と 2 件下回る件数となりました。

死亡者数は、就業中 15 件と、平成 26 年度から 3 年間同数となりました。就業途上は、4 件と昨年と同数となりました。

表 1 (重篤事故=死亡又は 6 カ月以上の入院)

区分 年度	就業中			就業途上			総件数		
	死亡	入院	小計	死亡	入院	小計	死亡	入院	合計
23 年度	16(1)	6(0)	22(1)	12(3)	3(1)	15(4)	28(4)	9(1)	37(5)
24 年度	18(0)	8(0)	26(0)	15(5)	3(0)	18(5)	33(5)	11(0)	44(5)
25 年度	22(4)	11(1)	33(5)	5(3)	3(1)	8(4)	27(7)	14(2)	41(9)
26 年度	15(1)	12(1)	27(2)	11(4)	4(2)	15(6)	26(5)	16(3)	42(8)
27 年度	15(1)	5(0)	20(1)	4(3)	5(3)	9(6)	19(4)	10(3)	29(7)
28 年度	15(4)	6(1)	21(5)	4(3)	3(1)	7(4)	19(7)	9(2)	28(9)

()の数字は女性で内数

2 平成 28 年度重篤事故の分析

(1) 就業中

表 2-1 のとおり、就業中の事故の 62%が、「墜落・転落」であり、毎年度高い割合で推移しています。植木剪定、樹木伐採等における墜落・転落の事故が 8 件と突出しておりますが、その他の作業中においても 5 件発生しています。これら事故は、不注意、油断などが主な原因と思われます。

次いで、「交通事故」と続いており、昨年度と比して 4 件の増加となっています。

また、28 年度も、単独就業での事故が発生しています。事故防止と事故の対応のためにもできるだけ、複数会員による就業が望まれます。

表2-1

事故の型	事故の内容	事故件数			
		死亡	入院	合計	比率
墜落・転落	植木剪定、樹木伐採等における墜落・転落	6	2	8	
	2階建て家屋の1階の部分のトタン屋根(高さ約3.6m)の塗装をするためにホースを持ち屋根に運動靴で上がり高圧洗浄機にて洗浄中、ホースに足が掛かりバランスを崩して屋根から滑り落ちた	0	1	1	
	草刈り作業を終え、一緒に作業をした会員と共に引き揚げる際に、公園内堀の石積天端を歩いていたところ、途中、天端から出ている小枝を避けたあとにバランスを崩し、堀へ転落した	1	0	1	
	公園管理棟の軒のごみを発見したが、草刈中だったので、後で片付けることになり、その後脚立を使い別の会員が下で支え軒に上りごみの除去清掃作業を済ませ、下へ降りる際軒に尻をつき、右足を脚立最上部に置き、続いて左足を最上部に置こうとしたときバランスを崩して頭から落ちた。	0	1	1	
	除草作業終了後、川辺階段で使用した道具(根切り鎌等)を洗っていたところ、誤って川に転落した	1(1)	0	1(1)	
	傾斜地において、伐採した樹木を片づけるために持ちあげた際にバランスをくずして転倒し、約2m下の地面に転落した	0	1	1	
	計	8(1)	5(0)	13(1)	62%
転倒	右手に雑巾を持っていたことから、階段の手摺りを拭いた際、階段上で転倒し後頭部を強打したと思われる	1	0	1	
	計	1	0	1	5%
交通事故	駐車場の清掃作業中、スーパーのテナントが運転する車と接触し転倒した	1(1)	0	1(1)	
	公園内清掃作業中、後方より走行してきた軽トラックに追突される	0	1(1)	1(1)	
	駐車場で、手作業による除草作業中に同駐車場に入ってきた乗用車に衝突された	1(1)	0	1(1)	
	弁当の配達を通常経路で行っていたところ、運転していた車を道路左側の縁石に乗り上げ、その弾みで対向車線にはみ出し、走ってきた軽乗用車と正面衝突した	1	0	1	
	計	3(2)	1(1)	4(3)	19%
	墓地内の除草作業(手作業)を行っていたと思われるが、墓参りに来た一般の方が倒れている会員を発見し、消防へ連絡し救急搬	1	0	1	

その他	送された 草刈作業を会員3名で刈払機で作業中、本人が他の会員に「蜂に刺されたので、病院へ連れて行ってほしい。」と言いきすぐ気を失った	1	0	1	
	清掃業務を終え、建物玄関より屋外に出た付近において、会社従業員の運転するフォークリフトと衝突した	1(1)	0	1(1)	
	計	3(1)	0	3(1)	14%
合計		15(4)	6(1)	21(5)	100%

(2) 就業途上

就業途上の重篤事故は、表2-2の交通手段別にみると、自転車での事故が43%、徒歩での事故、バイクでの事故が14%と続いています。

二輪車での事故を合わせると60%近い数値となります。

就業途上の事故は、7件と27年度の9件を下回ったものの連合本部、シルバー人材センターでは、日頃から交通事故防止のための様々な講習会等を実施しているにもかかわらず、10件近い件数の事故が発生しており、依然として憂慮すべき状態が続いています。また、就業途上の事故の中には、必ずしも、本人に過失責任があると言えない事故もありますが、交通ルールを守ることは勿論、自らの体力などを過信することなく、そして、周りに十二分の注意を払っていただきたいと思います。

表2-2

交通手段	事故の場所	事故の内容	事故件数			
			死亡	入院	合計	比率
徒歩	道路	横断中転倒	0	1	1	14%
計			0	1	1	
自転車	交差点	自動車と衝突	1(1)	0	1(1)	43%
		道路	強風にあおられて道路脇の用水路に転落	0	1(1)	
	道路	段差で転倒	1(1)	0	1(1)	
計			2(2)	1(1)	3(3)	
バイク	道路	自動車と衝突	1	0	1	
計			1(0)	0	1(0)	
自動車	交差点	自動車と衝突	0	1	1	29%
	道路	カーブを曲がりきれず衝突(家族の送迎)	1(1)	0	1(1)	
計			1(1)	1	2(1)	
合計			4(3)	3(1)	7(4)	100%

()の数字は女性で内数

(3) 年齢別状況

年齢別での事故状況は、表3のとおり、71歳から75歳が35.7%と最も多く、次いで、81歳以上が21.4%となっています。

また、男女別に見ると、男性は71歳から75歳の層が、女性は71歳から75歳の層及び81歳以上の層が最も高い数値となっています。

表3

年齢	60~65歳	66~70歳	71~75歳	76~80歳	81歳~	計
男性	2	4	7	3	3	19
女性	1	0	3	2	3	9
計	3	4	10	5	6	28
比率	10.7%	14.3%	35.7%	17.9%	21.4%	100.0%

平成 29 年度 4 月事故速報

重 篤 事 故

4 月は、5 件の重篤事故報告がありました。

昨年度の 1 件と比して大幅な増加となっています。

重篤事故の撲滅に向け、気を引き締めて安全対策に努めましょう！

4 月報告分

平成 29 年 度 4 月 分	就業中 ・ 就業途上	件数	内 訳				平成 28 年度同月分					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	4	3	1	4	0	就業中	0	0	0	0	0	
就業途上	1	1	0	0	1	就業途上	1	0	1	1	0	
計	5	4	1	4	1	計	1	0	1	1	0	

↳対前年度比 500.0%

4 月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全帽	安全帯	交通手段
1	男 75 歳	就業中 (死亡)	平屋屋根の塗装作業中に屋根(3m)から転落し、敷地の庭石に右腕を強打した。その後、病院に搬送されたが死亡した。	○	×	—
2	男 76 歳	就業中 (死亡)	公園内の枝下ろし作業を三脚を使用して作業中、3m位の高さから落下した。その後、病院に搬送されたが死亡した。	×	×	—
3	男 71 歳	就業中 (入院)	槇の剪定作業に取り掛かり、脚立(高さ2.4m)の頂上付近に登り作業を実施したが、作業位置を変える為、脚立を降りる際にバランスを崩し転落した。	○	×	—
4	女 74 歳	就業途上 (死亡)	就業先へ行く途中、踏切前の交差点を自転車で横断しようとしていたところ、産業廃棄物収集車にはねられた。その後、病院に搬送されたが死亡した。	—	—	自転車
5	男 73 歳	就業中 (死亡)	すもも枝剪定作業で、作業効率を上げる等のため、木の上に登り作業を行ったところ、足元の部分パイプ(高さ150cm程度、支えなし)が曲りバランスを崩して頭部前面から地面に落ちた。その後、病院に搬送されたが死亡した。	○	—	—

1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

4月は、就業中の事故12件、就業途上の事故7件と、合計19件であり昨年度と比して1件の増加となっており、就業中の事故は昨年度と比して1件増加、就業途上の事故は同数になっています。

男女別では、男性は同数となっており、女性が1件の増加となっています。

平成29年度4月報告分

仕事の内容		事故数(件)	男性(件)	女性(件)	平均年齢(歳)	
就 業 中	植木・樹木の剪定等	7(5)	7(5)	0(0)	73	
	除草作業	0(2)	0(2)	0(0)	—	
	屋内・屋外清掃作業	4(3)	1(2)	3(1)	76	
	その他	1(1)	0(1)	1(0)	71	
	計	12(11)	8(10)	4(1)	74	
就 業 途 上	交 通 手 段	徒歩	2(2)	1(0)	1(2)	80
		自転車	3(3)	1(0)	2(3)	77
		バイク	2(2)	1(1)	1(1)	73
		自動車	0(0)	0(0)	0(0)	—
		計	7(7)	3(1)	4(6)	77
合 計		19(18)	11(11)	8(7)	75	

()は平成28年度同月までの発生件数

事故報告書(重篤事故、1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故)は、その有無にかかわらず毎月8日までに必ずご提出願います。

また、重篤事故と推定される事故が発生した場合は、事故発生後概ね10日以内に「重大事故報告書(第1報)」によりご提出願います。

編集後記

新緑の美しい季節となりました。晴天に恵まれたGWも終わり、さてこれからは気を引き締めて安全就業にまい進とみなさま取り組まれていらっしゃると思います。今年度は3年に一度の全国統一安全就業スローガンを選定する年に当たっています。全国からたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。最優秀作品として3年間使用されるスローガンはひとつですが、応募作品を拝見すると、どの作品からもみなさまの安全に対する意識の高さを感じることができ、これを実践すれば事故が減少することは間違いないと思われます。最優秀作品の発表は次号となりますが、スローガンが日々実践され、事故のない日が続くことを願っています。

(松山)

今月は、平成28年度の就業中及び就業途上の重篤事故について報告いたしました。就業中の事故は、会員自らの油断、不注意、保護具の未着など、大きな要因となっていると思われます。植木剪定等における墜落・転落の事故は毎年度件数が多く、保護具を着装していれば重篤事故を防げたかもしれません。

保護具の着装の徹底をお願いいたします。

一方、就業途上については、自転車の事故が43%と高い割合となっており、死亡事故の4件中2件が自転車乗用時による事故です。連合、センターでは、交通事故防止のため地元警察との連携による交通安全講習会などを実施されておりますが、事故防止のため、日頃から周囲に気を配り注意の徹底をお願いいたします。

(中嶋)

見逃すな ヒヤリで済んだ あの経験

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216円 A4判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版／16頁からA4版／20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】